

ホラッ 2月の
屋外園が呼んでいますよ！！
京都市青少年科学センター

春の訪れを告げる植物

春一番に花を咲かせる**マンサク**、節分の頃に開花する**セツブンソウ**、雪の残る林床に咲く**雪割草**、小川の土手に顔を出す**ふきのとう**、畑の**苺の花**など 春の訪れを告げる植物が早

フキ：ふきのとう（キク科）

フキの若い花茎が**ふきのとう**で黄色い花が咲く雄株と白色の花が咲く雌株があります。香りとはほろ苦い味が特徴です。



ミツマタ（ジンチョウゲ科）

新しい枝が三つ又になって出るところからこの名がつけられました。樹皮の繊維は、コウゾとともに和紙の原料として利用されます。



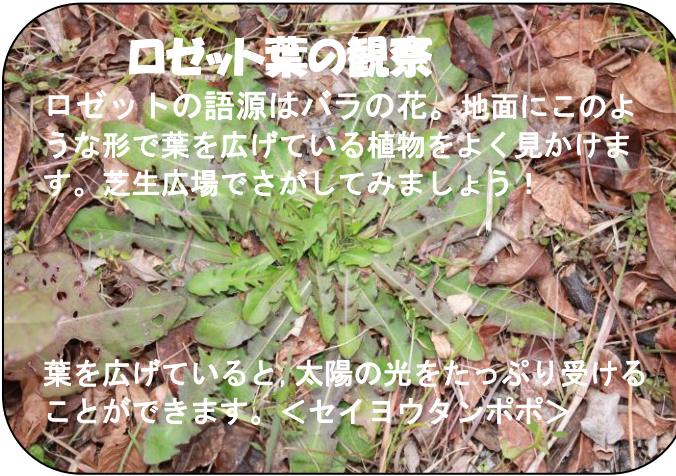
ジャノヒゲ（キジカクシ科）

山地の日かげに見られます。「りゅうのひげ」とも呼びます。細長い葉の間にきれいな青藍色の種が見つけられます。



マンサク（マンサク科）

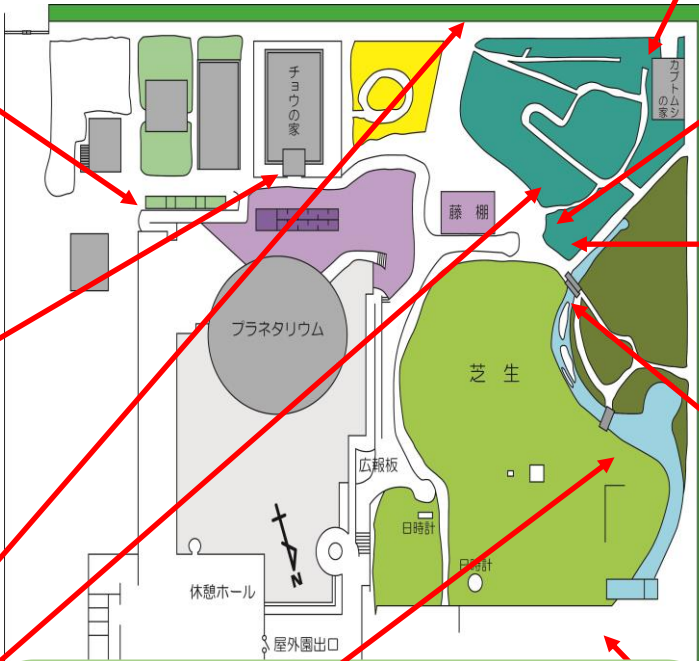
名前の由来には、他の花に先がけて「まず咲く花」という説や花がたくさんつくので「豊年満作」という説があります。



ロゼット葉の観察

ロゼットの語源はバラの花。地面にこのような形で葉を広げている植物をよく見かけます。芝生広場でさがしてみましょ！

葉を広げていると、太陽の光をたっぷり受けることができます。<セイヨウタンポポ>



節分と柊・鰯（ヒイラギ・イワシ）

昔から「臭いもの」や「尖ったもの」には魔除け（厄除け）の効果があるとして祭用いられる風習がありました。京都では、2月3日の節分の日、刺のあつヒイラギの葉に焼いたイワシの頭をまくらに飾る風習があります。



木々の花芽もふくらんできました

ボケ（バラ科）

古くから親しまれている花です。花色は紅・白・桃・などがあります。夏に熟する実は果実酒や砂糖漬にします。



サンシュユ（ミズキ科）

葉に先立って枝一面に黄色い花を咲かせます。秋に赤い実ができます。樹皮は薄くはれるのが特徴です。中国名「山茱萸」はゲニのことで



ジンチョウゲ（ジンチョウゲ科）

よい香りが好まれます。クナシ、キンモクセイとともに三大香木と呼ばれています。花びらに見えるのはがくです。



ネコヤナギ（ヤナギ科）

河原などで見られます。早に銀色の毛に包まれた花芽枝にたくさんつけます。ネの尾のようですね。



オオキバナカタバミ（カタバミ科）

南アフリカ原産。黄色く大きな花が鮮やかです。観賞用導入されたものが逸出し市地や道端に見られます。屋



2月 野鳥特集

京都市青少年科学センター

屋外園では41種類の野鳥を確認しています。冬は屋外園を訪れる野鳥の種類が一番多い季節です。一年中見られる留鳥のほかに、北国で繁殖し日本で越冬する冬鳥や高山などで繁殖し低地で越冬する漂鳥が加わるからです。

屋外園が
呼んでいますよ！

